

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連  (北海道)	良く なっている  やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの来客数の動きから、景気はやや良くなっている。	
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・ニュースなどから消費税増税が見送られるのではないかとこの雰囲気になっており、消費者から歓迎する声が上がっている。	
		百貨店（担当者）	単価の動き	・顧客向け施策の実施期間中の売上は減少したものの、通常時の売上は総じて増加傾向にある。	
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・5月中旬以降、気温が上昇したことにより、婦人服を中心に初夏物の動きが良くなってきており、それまで低迷していた衣料品が回復傾向に転じている。	
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が徐々に前年実績を上回るようになってきた。	
		スーパー（役員）	来客数の動き	・既存店ベースの来客数が前年並みを確保したことから、3か月前との比較ではやや良くなっている。ただ、景気が回復している様子までは感じられない。	
		スーパー（役員）	お客様の様子	・北海道新幹線の開業効果から、ゴールデンウィーク以降、観光客が増加しており、街全体が活気付いている。	
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・沿岸部を中心に売上、来客数が回復傾向にある。さけます漁の代替としてさばやさんまの漁が始まったことの影響とみられる。ただ、加工場などの周辺事業への効果が薄く、大幅な改善まではみられない。	
		コンビニ（オーナー）	販売量の動き	・5月は売上が前年比105%、来客数が前年比101%、客単価が前年比104%となった。特に品ぞろえを拡大した冷凍食品は前年比150%と大きく伸びた。	
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークが終わってから天候が良くなったことで売上の増加につながった。	
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・4月に続き、観光客の団体利用が多い。ランチ、ディナーともに客単価が例年にならぬほど高く、全体売上は前年から40%増加している。ただ、業界の人手不足が深刻である。	
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・近隣アジアからの外国人観光客がマイナス基調で推移したものの、国内からの報奨旅行、イベント需要が好調に推移したことで、トータルではプラスとなった。	
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・5月はゴールデンウィーク期間中も含めて暖かい日が続いたことから、芝桜やチューリップの花めぐりなどの観光需要が好調に推移している。	
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・5月26日時点の利用乗降客数が前年比107%となっており、やや良くなっている。	
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光客の入込により、旅客、車両ともに輸送量が増加している。	
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・北海道新幹線の開業以降、当地域に観光客が大勢訪れており、飲食店、ホテル、旅館などがにぎわっている。ただ、そうした効果が一般消費や住宅建築にはまだ結び付いていない。	
		変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の気持ちは以前と比べて少しは上向いているが、買物の様子は依然として変わらない。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・5月に入り、地元住民の来街が増加していたが、下旬に真夏日が4日連続で続いた影響で高齢者の客足がしばらく途絶えたため、月全体としては例年並みであった。また、観光客は外国人観光客も含めて中心市街地に宿泊することが多いものの、日中は他所に出かけるため、中心市街地では夜間に飲食店などを利用するのみであり、お土産などの物販で目立った消費をしていない。

商店街（代表者）	販売量の動き	・一般消費に大きな増減はみられないが、外国人観光客による消費が大幅に落ち込んでおり、外国人観光客をターゲットにした店では売上が2～4割ほど落ちている。来客数が減少している影響も少しはあるが、何よりも客単価の大幅な低下が大きく影響しており、特にブランド品、高級品、家電製品などの落ち込みが大きくなっている。	
商店街（代表者）	お客様の様子	・客足が冬期間と変わらない。自分自身も買物や外食をできる限り控えている面があるが、それと同じような雰囲気を感じている。	
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・4月に続き、来客数が10%近くダウンしており、なかなか回復してこない。定価品の売場だけでなく、催事場も売上が前年割れしており、来客数減少のダメージが大きい。	
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・株価が安定しないことで、株を保有していない人も景気の悪さを何となく感じている。消費税増税の1年後には持ち直しの動きも感じられたが、その後は原材料価格高騰の影響もあり、加工食品などは支払時に10%近い負担感を持っているようである。来店頻度も週3回の客が2.5回程度まで低下している。	
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・例年、この時期はクールビズ関連の販売量が多くなるが、今年は客の買換えが進まず、買い控えが目立つなど、春先に引き続き財布のひもが固い。	
家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数が前年よりも落ちている。	
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車、中古車ともに大きな変化はみられない。商材や経済状況に大きな変化がなく、ユーザーの購入意欲を前向きにさせる要因に乏しい。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の販売台数が上向いてこない。特に軽自動車も奮わない。中古車は前年並みで推移している。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出た割になかなか伸び悩んでいる。	
自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・カーナビは客単価が落ちているものの、販売量は前年並みであった。逆に夏タイヤは高単価商材で動きがみられる。車の納車が進む時期になるとともに、車内用品も比例して売れるようになってきている。	
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・景気は3か月前と変わらない。当店では春先の値下げと告知拡大により、来客数が増えてきているが、値ごろ感のある料金のメニューばかりに注文が集中しており、景気回復を感じにくい状況にある。	
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・春から秋にかけては旅行業の受注シーズンであり、前年並みの受付数があることから、景気は変わらない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・3月から4月にかけて観光客の貸切利用実績が前年比で数パーセント落ち込んだものの、5月に入ってイベント観光のオーダーが若干伸びており、3か月前との比較ではプラスマイナスゼロであった。	
通信会社（社員）	販売量の動き	・以前であれば客が商材を購入する際にグレードを上げたり、追加で関連商材をもう1品購入するといった余裕があったが、客の所得が変わってこないなかで、現在はそうした余裕がなくなってきている。必要な商材1点を安く買い、しかもグレードは抑えるというのがここ最近の流れとなっており、景気は全く上向いていない。	
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信機器の販売量は伸びているものの、都市部、量販店を中心に競合他社への乗換え流出が想定よりも多く、自社の通信サービスの利用実数が伸びてこないため、全体としては変わらない。	
パチンコ店（役員）	単価の動き	・依然として、観光旅行業のみが潤っている。建設業は以前の勢いがなく、熊本地震の復興に伴い資材の不足や価格高騰の影響も懸念される。	
美容室（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前後で来客数がかかなり変化している。	
住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・この数か月間、分譲マンションのモデルルームへの来客数が安定しており、大きな変化がみられない。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク明けから25日にかけての買上客数が前年比で20%近く落ちている。ただ、月末になり少し盛り返してきている。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・単価の低い飲料水などは相変わらず堅調に推移しているが、単価の高い商材はブレーキがかかったようであり、動きが非常に鈍い。

		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク後に低温や天候不順が続いたこともあり、来客数、買上客数とも苦戦している。5月後半からの気温の上昇とともに初夏アイテムの動きが回復したが、中盤までの不振をカバーするほどではなく、月全体では前年割れとなっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが継続している。また、客1人当たりの購入点数も前年割れとなっている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・ゴールデンウィークは悪天候だったこともあり、非常に厳しい結果であった。特に行楽用品の売上が厳しかった。また、4月に一部の商材で値上げのあったたばこやウイスキーなどの酒類の売上も低迷している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・売上が前年を下回るなど、やや悪くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・自店だけではなく他店も含めてみると、全体的に2～3月と比べて販売台数が減っている。熊本地震の影響もあり、客がネガティブな方向に向かっている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	それ以外	・新たな販促活動に着手して3か月が過ぎたが、すでに効果に陰りがみえてきている。常に新しい切り口で健康に関する情報を客に提供していくことが重要になってきている。
		観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・春先から急に外国人観光客の団体旅行の集客が悪化している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・例年、農繁期に入ると旅行申込が停滞する傾向にあるが、今年は販売額が前年割れとなるなど、落ち込みが目立つ。来客数も確実に減っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・例年、5月はゴールデンウィークがあるため、タクシー利用が減り、売上も落ちる月であるが、今年は前年よりも悪い状況にある。乗務員不足でタクシーの稼働率も落ちているため、会社の売上は前年を大きく下回った。
		タクシー運転手	販売量の動き	・前年と比較して売上の微減が続いている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・ゴールデンウィーク後の消費が落ち込んでおり、活力が感じられない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・例年、5月は売上が最も落ちる月であるが、今年は天候があまり良くなく、客の財布のひもも固いことから、景気はやや悪い。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・例年、5月はゴールデンウィーク期間中が暇で、その後、客足が回復するパターンで推移するが、今年に限っては客足の回復しない状況が続いている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年と比較して約5～10%落ち込んでいる。
	悪くなっている	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・夏物衣料の動きが非常に厳しく、すべてのアイテムにおいて前年の90%台前半となっている。気温が30度を超える日が数日続いたにもかかわらず、婦人物、紳士物の動きが厳しい。
		百貨店（役員）	来客数の動き	・来客数の絶対数が少なくなっているため、景気は悪くなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前と比べると販売点数が10%程ダウンしている。4月は若干上向きかけたが、5月は右肩下りのまま更に悪くなっている。
企業動向関連 (北海道)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		建設業（従業員）	取引先の様子	・補助金交付事業の内定時期を迎え、当該事業の見積依頼件数が増加してきている。
		金融業（従業員）	それ以外	・個人消費はスーパー、コンビニなどで前年を上回る売上がみられるなど、堅調に推移している。外国人観光客の爆買いに沈静化の動きがみられるものの、円高が進行しているにもかかわらず外国人入国者数が前年を上回って推移するなど、観光は好調を維持している。低調であった公共投資も補正予算の早期執行などにより下げ止まりがみられており、緩やかではあるが景気は回復基調にある。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・わずかではあるが売上が前年よりも上向いている。
	変わらない	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・高額商材の動きがやや鈍ってきた。特定の原因は分析できていないが、全体的に消費意欲が減退してきている。

		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事の発注量が若干前年を上回って推移している。また、民間建築工事もマンション新築、事務所建て替え工事などの発注が比較的順調に推移している。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・政府の規制改革会議における指定生乳生産者団体への補給金の交付についての答申が秋まで先伸ばしされ、2016年度の生乳の取引価格が2年ぶりに据置きで決定したことから、前年並みの生乳生産が見込まれる。輸送業者としては酪農家が安心して生乳を生産できるようシステムの構築を切望している。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・当初は5月以降の物流量が活発化すると予測していたが、思ったほど伸びていない。取引先も上期は厳しいかもしれないと説明し始めており、数字だけをみると3か月前と変わっていない。
		司法書士	取引先の様子	・住宅建築に伴う土地取引が若干上向き傾向にあるが、客観的に景気が良くなってきているとは明言できない。
	やや悪くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前よりも売上が落ちている。前年と比べても1割ほど売上が落ちており、月末の工場稼働が停止となっている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・外国人観光客の勢いが落ちてきているため、販売量の動きがやや悪くなってきている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前は前年比でプラスだったが、5月は前年比でマイナスとなった。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・最近になり、顧客からサービス価格に対する低廉化の要求が強まりだしている。実際に、ここしばらく維持していたサービス価格の単価が低下傾向にある。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引の成約数が減少している。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・つい2～3か月前までは要員の確保が極めて難しかったが、少しずつ仕事に空きが出始めている会社が出てきた。
	悪くなっている	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークの影響で稼働日数が減少したことから、受注量、販売量ともに低迷している。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北海道)	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数は運輸・土木でのけん引もあり、前年比110%と前年から1割伸びている。求人数を押し上げたのはあくまで一時的な要因であるが、それを除いても5%程度の純増があるとみられる。前年超えはここ10数か月なかった動きであることから、景気はやや良くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から2.8%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。月間有効求人数は前年から4.7%の増加となり、9か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年から9.6%増加するなど、増加率が高い水準にある。なお、月間有効求人数は前年から6.9%の増加となっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業側の採用活動が例年になく活発であり、早めに良い学生を確保したいとの熱意が強く伝わってくる。また、今まで契約社員しか採用していなかった企業で、今年から正社員募集に変更している企業が多くみられる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・求人数は増えているが、派遣、紹介ともに求めるスキルが高くなっており、マッチングが難しくなっている。今年初めのことにかく人手を確保しなければならぬというムードが影を潜めている。企業の業績の伸びが緩やかになったためか、じっくり人を見極めるムードに変わってきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・業種、職種を問わず、求職者が減少しており、中途採用市場の求人企業を悩ませている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・例年よりもゴールデンウィーク明けの人材獲得に対する意欲がおう盛であった。求職者も中途採用やパートなどで瞬間的な動きがみられたことで、普段よりも人材獲得がスムーズに進んだ企業が多かった。ただ、求人が決まるところと決まらないところの二極化は相変わらずである。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・新規求人数は安定しているが、正社員求人の比率は上がっていない。新規開業などを除くと、観光や外食産業ではパートの需要が多いのが実情である。

やや悪く なっている	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比較して求人件数が少ない。どの企業にも人手不足感があるが、若年層がいない、高齢者しかいないといったケースが多々あることから、求人広告の掲載件数が減っている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が2か月連続で前年を下回った。新規求人数が前年から2.0%増加している一方で、正社員求人については前年から3.6%減少している。
悪く なっている	-	-	-